



地域の人たちが待っていた山車の運行



大日神社の伝説

伝説によれば、大日堂は第26代継体天皇の勅願により西暦523年に創建されたといわれています。かつて名僧行基が1本の桂材で3体の大日如来像を作り独鈷、小豆沢、長牛の大日堂に安置したと言われますが、現存するのは独鈷だけとなりました。

ダンブリ長者物語は独鈷に生まれ育ったといわれるトク子から始まり、3つの大日堂はこの物語の舞台としてもつながっています。

浅利氏と大日神社

この地方が広く比内と称された時代、浅利氏はこの地の領主でした。独鈷大日神社の立つ小高い台地は、浅利氏が独鈷城を築いた地であり、独鈷大日神社は浅利氏の祈願所でもありました。

いて運行した山車も、若者が少なくなつて、だんだんと運行が出来なくなり、いつしか神社に奉納するのみになつてしましました。

長い間出番がなくなつていた山車ですが、昨年、25年ぶりに復活し、地域住民の顔に懐かし

独鈷囃子の構成

い笑顔が戻りました。動力は人の手から機械に変わりましたが、昔と変わらない『ヨイ・ヨイ、ソレ イヤサカサッサー』の掛け声が地域内に響きわたりました。

独鈷囃子は、四つのお囃子で構成されています。

寄せ囃子／出発するときのお囃子。笛の吹き手に任された旋律に、太鼓の打ち手が呼応し、次第に盛り上がります。

本囃子／移動のときのお囃子。リズムがスローになり、ゆつくりと動く山車の上で艶やかに踊ります。

剣囃子／要所ごとに山車が停止して、独鈷城主ゆかりの踊りを披露します。

帰りやま／最後に帰るときのお囃子。軽快なお囃子で、山車の運行の最後を飾ります。

民謡と二人三脚で伝える独鈷囃子

現在の独鈷囃子保存会は、高橋貫治会長をはじめ40人のメンバーを中心に構成されています。このメンバーの多くは、比内民謡同好会にも所属し、木曜日は公民館で民謡のけいこに精進し、火曜日は民舞伝習館で独鈷囃子の活動も行っています。

無形文化財である独鈷囃子を後世に伝えるためには、子供たちの参加が欠かせません。保存会では、毎年、地域を問わず小さな子供たちを受け入れ、練習を重ねています。そんな子供たちが、民謡も始めることも多く、毎年のように民謡全国コンクールで優勝する子供たちが育っています。

子供たちには、民謡もまた地域の文化として、伝わっているのかもしれない。

練習中の子供たちからお話を聞いてみました

今年は、保存会に保育園児から小学5年生まで12人の新人が入りました。初舞台に向けて、元氣いっぱい練習している皆さんにお話を聞いてみました。

独鈷囃子は、難しい？

・ 難しいよ。カンタン、簡単です（ホントかな）。

練習は楽しいですか？

・ 楽しい。けど、怒られることもある。踊るのが楽しい。

どんなときに怒られるの？

・ ワオとか言うとき怒られる。

先生は怖いですか？

・ 踊りの先生は怖くない。太鼓の先生は怖い。

いつが初舞台？ 大丈夫？

・ 11月6日、文化祭が初舞台です。大丈夫！ 頑張るから。

独鈷囃子のどこが好き？

・ 太鼓（女の子も）、踊り、失敗するかも！。

唄（バラバラ）。

大きくなつても、続けますか？

・ 続けまーす（全員大きな声）。

男の子たちは、太鼓をやるの？

・ 三味線もやってみたいけど、難しいから。まずは太鼓をちゃんと覚えて、将来はやってみたい（エライ！）。

（お母さんに）子供たちは自分から進んで来ているんですか？

・ 子供たちが張り切って来るので、引つ張られて来ている。

・ 衣装とかもあるので大変だけど、楽しいです。

みんな近所のかたですか？

・ 独鈷周辺に限らず、大館地域など、いろんなところから来ています。



女の子たちは踊りの練習



男の子たちは太鼓を練習

子供たちは、先生や先輩の背中を見ながら、とつても自然な感じで練習していました。